

21世紀は、高度情報社会、ネットワーク社会、知価社会など様々な言葉で呼ばれている。コンピュータの発達や、インターネットなどのネットワークの発展などの歴史的背景と発展過程、技術的背景などを基礎としてそれらが社会システムに与える影響について学習する。現在の社会システムについて近代工業社会の歴史的考察と技術の変容、消費化社会、社会システムの基本理念について情報技術の社会システムへの影響を考察しながら講義を行う。

内容は次のようなものである

- | | |
|------------------------|--------------------|
| 1. 社会構造の変容 | 6. 情報通信政策の変容 |
| 2. ネットワーク社会とは | 7. ネットワーク産業と市場政策 |
| 3. ネットワーク社会での経済理論の変化 | 8. 産業構造の変化と雇用政策 |
| 4. ネットワーク社会と電子政府・電子自治体 | 9. 事例で考える情報の非対称性問題 |
| 5. B to C 市場における電子取引 | 10. ICT と金融システム |

ユビキタスネットワーク社会は、従来にない情報通信ネットワークによって空間・時間・使用者の情報端末環境などの状況制約から解放され、人々の生活に利便性をもたらし、社会への参画、あるいは安全性の充実など、社会上の問題解決に効果をもたらすものである。さらには、新産業・新企業の振興といった経済的効果を生み出すことが期待されている。その中で一番私たちの生活に身近なものが IC タグである。現在 IC タグ市場は、その潜在能力の可能性の大きさから従来のバーコードにかわり、急速に拡大すると見込まれている。IC タグは便利であり多くの長所を持っている一方、短所もある。

<p><IC タグの長所></p> <ul style="list-style-type: none"> ○企業における管理システムの精度向上 ○食品の信頼性や安全管理 ○建物・橋などの保全・安全管理 ○交通の安全管理、 ○医療・健康分野では、健康管理を継続して行うことが可能 	<p><IC タグの短所></p> <ul style="list-style-type: none"> ○コストや技術への対応 ○プライバシーの侵害問題 <li style="padding-left: 20px;">個人情報が含まれている可能性もあるから
---	--

私たちの生活にも、実際に IC タグが導入されている。例えば、野菜の生産者や生産地、その他詳しい情報を記載し消費者が商品について詳しい情報を把握出来るようにする取り組みや、クレジットカードに IC チップを組み込み、その中に個人情報を記載し、インターネット上での買い物や自動機械での買い物などを可能にした。アメリカでは、IC タグのトレーサビリティ（商品の履歴情報把握）という観点から、世界最大の小売業アメリカのウォルマートの事例がある。

個人・生活・地域社会、自治体、国家、グローバルと、個人から社会全体にわたる領域で市場の可能性が考えられるのであるという利便性の反面、低コスト化・従来技術との置き換えや共存・電子タグ関連の標準化・電子タグが使用する無線周波数の世界的統一、信号読み取りの信頼性・プライバシー保護とセキュリティ確保など問題点も残っている。

このようなネットワーク社会における問題点・解決法などを学ぶ。